



山本 涼子 議員

「住民不在」「議会軽視」の 村有地売却とホテル誘致問題！！



経緯、進め方に問題あり

山本議員

前年度、村と県と業者の三者で開発協定締結を前提に進めていたが、業者側のトラブルで中断。選挙で新体制となり、12月定例会では、県との連携事業ではないと答弁あり。経緯、進め方に異論を唱えても計画は着々と進み、プロポーザル審査も実施。議員に賛否を問うことなく基本協定締結を今月3月末予定。この対応は住民不在、議会軽視では。

村長

前村長が決定。地元の同意が得られていた事、村のブランド力向上と地域活性化に繋がると判断。

村の費用対効果

山本議員

高台の広大な草原、南阿蘇の絶景ポイントである村有地財産を2億6,700万円（坪約3,100円）で売却。一時金が入っても、配水管や道路のインフラを村が整備。また、1泊20万円以上する富裕層向けホテルを誘致しても、村外企業の為固定資産税のみで税収は大きくない。排水を直接白川に流すデメリットや、水資源の枯渇等考慮した村の費用対効果を問う。

村長

土地の売却益は見込めるが、固定資産税は、建物の大きさなど詳細はこれから。試算はしていない。排水は会社が行う。

賛成の条件（第3駐在区）

山本議員

令和6年10月に第3駐在区の説明会の際、賛成条件であった3つの内容を聞く。また、その条件は未来永劫守られるか。一部は超富裕層向けに販売計画。分譲となれば更に条件の未来永劫は難しいのでは。

村長

条件①個人所有の山林につながる里道の確保。②地元水道組合管理の施設を用地内に敷設。③外国企業に売却させない。→地元要望に沿った事業計画に反映できるよう要望。調査期間中に働きかけていく。優先交渉権者の積水ハウスは、大阪が本店（国内企業）。

村民の声

山本議員

- 村民有志が実施したアンケート結果を提供頂いた（548名回答）。結果（一部）は以下のとおり。
 - 今回の計画…「知らない」57%、「聞いたが内容は不明」28%
 - 計画への賛否…「反対」45%、「どちらかと言うと反対」20%、「情報がわからないから判断できない」27%、「賛成」3%、「どちらかといえば賛成」4%
- 南阿蘇中「子ども議会」では、南阿蘇の自然の魅力である、山や水源、美しい星空などを生かした提案が多数発表。
- 今、世界では戦争紛争が勃発。日本は食料自給率38%。多くの輸入に頼っている為、実質的には9.2%。行政が「今」やるべき事は…。
- 国の事業で建設されたグリーンピア事業。その際、住民の分断、そして最終的には村に払下げ。負の遺産とせぬよう村行政は苦勞。国や県の話を受け入れた結果、被害を被るのは地域住民。

村長

自然環境や景観に配慮した事業推進が条件。企業誘致は不可欠。私の政治生命をかける。

山本議員

地域独特の風土と人々の生活、生業が長い年月をかけ作り出した自然と人間の共同作品「南阿蘇村の文化的景観」は、今や村外県外そして外国人をも魅了。夜は天の川を堪能、そして四季折々の虫の音など。しかし、「村民の蝶」であるオオルリシジミは絶滅危惧種に指定。「幸運や精神的な豊かさを運ぶ」オオルリシジミが、多く飛んでいけば更に観光客を呼び込む。「今」ある「既」にあるものに目を向け、それを大切にしていける時代では。



村長

野焼きの担い手不足、高齢化で山に入れぬ。実績ある会社が責任を持って管理する方が、村民の安心に繋がる。

山本議員

ここで暮らす皆で守っていけるシステムづくりに舵を切るよう強く希望する。